

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	乳幼児の予防接種の全種個別化事業									
1 - 2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	母子保健係	評価票作成者	母子保健担当係長 岡田恵子		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」				基本施策	感染症対策		コード	2—1—3
						単位施策(中)	予防接種等の対策		コード	2—1—3—1
	項	健康				単位施策(小)	接種しやすい環境づくり		コード	2—1—3—1—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	概ね3か月～90月未満児			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		児の健康状態をよく知っているかかりつけ医の元で年間を通していつでも安心かつ安全に接種できる。			
1 - 5 事務事業の内容	定期予防接種については、現行の集団接種方式のポリオ、ＢＣＧを実施。三種混合、二種混合、麻しん風しん（MR）混合、日本脳炎が個別接種対応となっている。また、病気ややむを得ない理由で接種機会を逃した対象									

2 ■事務事業実施の状況

		事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握	市民ニーズの認識
2 - 1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	MRワクチンへの切り替えと日本脳炎の積極的接種見合わせ措置への対応等市民への周知の徹底をした。	予防接種は努力義務ではあるが、国民の免疫水準の維持のためにその有効性等の情報提供など啓発活動に努めなければ	法改正に伴う接種方法の変更などの正しい情報提供が求められる。
	平成19年度	最新情報の収集と医師会との調整及び市民への情報の周知に努めた。	昨年の１０代及び２０代を中心とした麻しんの大流行を受けて、麻しんの排除計画が強化された。	〃
	平成20年度	ＢＣＧワクチン単包装化に対応して個別接種化を検討したが、結論に至らなかった。	日本脳炎の接種を控えることが継続され、対象者への再開時の対応準備が必要。	〃
	平成21年度	ポリオ・ＢＣＧは、集団接種のメリットが高いので、継続する。	接種内容等の変更は、あるものの、個別化事業としては継続する。	〃
	平成22年度	定期予防接種は継続実施していく。また、年度途中ではあるが任意予防接種２種類を安全安心を確保しながら平成23年2月から県補助事業としての位置づけで実施した。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
平成26年度				
平成27年度				

2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	乳幼児の予防接種の全種個別化			5(種類)	6(種類)	国は個別化の方向を奨励しており予防接種体制の充実度を表す指標 個別接種委託数 【資料】とよあけの保健（麻しん・風しんが混合ワクチン化されたため種類は1種類減）					

2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）	活動実績a（単位）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費b（千円）	4,692（人）	4,513（人）	6,660（人）	6,675（人）	7,800（人）					
	人件費c（千円）	48,689	48,607	67,330	68,622	74,274					
	合計コストd（b＋c）（千円）	178	320	167	167	279					
	単位コストd／a（千円）	48,867	48,927	67,497	68,789	74,553					
		1人当たり 10	1人当たり 11	1人当たり 10	1人当たり 10	1人当たり 10	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明	→ 個別接種：三種混合、二種混合、日本脳炎、麻しん風しん（MR）混合 予防接種直接事業費：74,273,569円 人件費： 90時間 3,100×90時間=279,000円
---------------------	---

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移											
	指標対応実 績（種類）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	後期目標値 に対する達 成度（％）	4	4	4	4	4					
		66.7	66.7	66.7	66.7	66.7					

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分											
	単年度 担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	A	B	A					

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
3 - 2 評価の内容	平成18年度	最新情報の収集と市民への情報の周知の徹底を図る。	B C Gの個別化に向けての近隣市町村の動向を把握しつつ、今後の当市の方針を検討していく。	MRや麻しん・風しんおよび日本脳炎の接種に関する情報については、タイムリーに情報提供された。	
	平成19年度	〃	麻しん風しん(MR)の中学1年生と高校3年生を対象にした5年間の時限措置や三種混合の接種スタイルの解釈の見直し等変更点について医師会との調整及び市民へのPR等の対応に	情報の変更など戸惑う部分もあったが医師会との調整や市民へのPR等タイムリーに対応した。	
	平成20年度	〃	日本脳炎ワクチンの承認がなされるので、供給情報や接種者概要等を掌握し、実施の準備を進める。	〃	
	平成21年度	〃	接種内容の変更はあるものの、個別化事業として継続する。	接種内容の変更については、積極的にPRするものの、個別化への移行については、再検討を要する。	
	平成22年度	定期予防接種・任意予防接種と内容の著しい変更があり、予防接種事業の個別化にとどまらず予防接種機会の少ない対象者への対応は多様化している。			
	平成23年度				
	平成24年度				
	平成25年度				
	平成26年度				
	平成27年度				

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示	
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
	平成21年度	B	利用者の利便性や費用対効果の分析を行い集団が個別接種かを判断しながら事業を進めていくこと。	
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。ただし、利用者の利便性や費用対効果の分析を行いながら事業を進めること。	
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			